

**製品名: カスパーゼ-14 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07966**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	27kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CASP14
別名	CASP14; Caspase-14; CASP-14
遺伝子 ID	23581.0
SwissProt ID	P31944
免疫原	カスパーゼ 14 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 110-190

**背景**

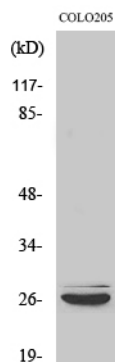
この遺伝子は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーのメンバーをコードしています。カスパーゼの連続的な活性化は、細胞アポトーシスの実行段階において中心的な役割を果たします。カスパーゼは不活性なプロ酵素として存在し、

保存されたアスパラギン酸残基においてタンパク質分解プロセッシングを受け、大小2つのサブユニットを生成します。これらのサブユニットは二量体を形成し、活性酵素を形成します。このカスパーゼは、in vitro ではカスパーゼ8およびカスパーゼ10によって、in vivo では抗 Fas アゴニスト抗体または TNF 関連アポトーシス誘導リガンドによってプロセッシングおよび活性化されることが示されています。このカスパーゼの発現およびプロセッシングは、皮膚バリアの形成に重要なケラチノサイトの終末分化に関与している可能性があります。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能：表皮分化に関与する非アポトーシス性カスパーゼであると考えられています。ケラチノサイトの分化および角化に関与していると考えられる。フィラグリンをタンパク質分解的に処理することで、表皮の成熟を制御していると考えられる。誘導：コンフルエント後増殖条件下 (in vitro) の未分化ケラチノサイトにおいて。類似性：ペプチダーゼ C14A ファミリーに属する。サブユニット：未処理のカスパーゼ 14 と処理済みの 19 kDa (p19) および 10 kDa (p10) サブユニットの複合体。組織特異性：成人皮膚基底上層 (有棘層から顆粒層、角質層まで) のケラチノサイトで発現 (タンパク質レベル)。毛幹および脂腺のケラチノサイトで発現 (タンパク質レベル)。乾癬皮膚ではごく低レベルでのみ発現。

## 研究分野

細胞生物学

## 画像データ



カスパーゼ 14 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析